

CAREER INTERVIEW

キャリアインタビュー



事務職：2014年入庁
秘書広報課 課長

PROFILE

大学院で歴史に関する分野を専攻し、学芸員資格を取得。フリーペーパー会社での**広告営業を5年半、遺跡の発掘補助を1年半**経験。奈良市の求人を見た時に感じた「経験を広報や観光に活かそう」「なんだか面白そうだな」という直感を信じ、新たな挑戦を決意。観光、広報業務など、多様な経験を経て、**2020年に係長へ就任、2024年より課長を務めている。**



広告営業の経験が、即戦力になった

最初の配属先はリニア推進課。担当はPR業務でした。「どの媒体に広告を出すか」「どんなターゲットに情報を届けるか」を考える仕事は、まさに前職の**広告営業の経験そのもの。自分のスキルを活かせるスタート**でした。

「勇気を出すこと」こそが管理職の使命

管理職になると「少し勇気を出してこの人と調整してみる」「勇気を出して決断する」場面が本当に多いんです。私自身、もともと人前に出るタイプでもなかったですし、課長に話しかけにくいと感じる職員の気持ちもよくわかります。でも、**調整役として“勇気を出して前**に出る”のが自分の役割だと思っています。

新しいことに挑戦できる面白いフィールド

今、奈良市役所は、風通しがよく、若手もベテランも一緒に挑戦できる、すごく**前向きな組織**になってきています。いろんな価値観や経験を持った職員が、それぞれの立場から意見を出し合いながら仕事をしています。とても活気があります。

業務内容は民間との協働や新しい分野への挑戦など、本当に多岐にわたっています。「**新しいことにチャレンジしたい**」「**自分の経験をまちづくりに活かしたい**」と思う方には、とても**面白いフィールド**です。

職員数2,000人を超える大きな組織ですが、自分の力を発揮できる場がきっと見つかります。

全文はこちら



建築職：2024年入庁
建築指導課 主事

PROFILE

京都府内の自治体で**4年間、奈良県内の自治体で2年間**の計6年間、**建築技術職員**として勤務。建築一筋で専門性を深めたいという思いから、建築工事の予算規模が県内トップクラスの奈良市への転職を決意。現在、**建築指導課の審査係**で、**建築基準法に基づく確認申請の審査**を担っている。



学びの連続の日々。課題はチームで乗り越える

以前勤めていた役所では、主に工事部署に所属しており、積算、入札や現場管理など“**工事の流れ**”を一通り担当していました。

法令に関する業務は未経験だったので、今の仕事には苦労もありますが、周囲の**サポート体制**がしっかりしていて**非常に働きやすい**です。一人で抱え込むような職場ではなく、**チームで支え合いながら業務に取り組める環境**があり、非常に心強いですね。

専門性の高い分野に飛び込んだことで、これまでとは異なる視点や知識が求められ、日々学びの連続です。

ならまちや観光地の景色をつくる一員として

奈良市には、東大寺や興福寺、ならまちなど、歴史的・文化的な背景を持つ地域が多くあります。文化財や伝統的な街並みが残る中で、建物を建てる計画に関わることができるのは、**奈良市ならではの魅力**だと感じています。

自分が観光で訪れたことのある場所の一部が、実際に建築計画として動き出し、その審査に携わることができたことは、とても嬉しい経験です。

自分が関わった案件が形になり、街の一部として完成していく様子を見ると、やはり奈良市ならではのやりがいを感じます。

全文はこちら



民間企業、自治体職員、国家機関などを経て奈良市役所へ入庁した4名に、経験がどのように生かされているかや、奈良市役所の雰囲気について聞きました。



福祉職：2025年入庁
(リーダークラス採用)
保護課 係長

PROFILE

法学部を卒業後、養成所で1年間障がい福祉について学ぶ。その後、**大阪府内の市役所**で生活保護のケースワーカーや相談員、係長職にあたる**査察指導員(SV)**として、**合計13年**福祉の最前線で経験を積む。その後、**大阪労働局で1年間**勤務。生活保護の現場で得られるやりがい忘れられず、地元・奈良市の福祉職の**リーダークラス採用**にて入庁。現在は係長として5人のケースワーカーをまとめている。



自治体の外に出たからこそ客観的に考えられる

前職で長く現場にいたので、ケースワーカーが直面する困難や悩みに共感しやすいですし、具体的なアドバイスができる点は**経験を活かせていると実感**します。

国の機関で働いた経験も活かしています。外から自治体を見ることで、より**客観的に組織の課題や改善点を考えられる**ようになりました。

一方、同じ生活保護の業務でも、自治体によって考え方や事務処理の仕方が微妙に違う点は苦勞しました。法律は同じでも、その解釈や運用の仕方に自治体ごとの「作法」がある。その違いを自分の中でアップデートしていく作業が、最初のうちは大変でした。

奈良市は懐の深い職場。安心して飛び込んで

奈良市は歴史と文化が豊かなだけでなく、新しいことに挑戦しようという気概に満ちた職場です。私のようないわゆる「王道」ではないキャリアを歩んできた人間も温かく受け入れてくれる懐の深さがあります。

入庁後、市長との距離が非常に近いことに驚きました。庁舎内を歩いていっしょすることも多く、トップとの距離が近い、**風通しの良い組織**だなと感じます。

職場環境で言うと、職員同士の繋がりが温かいですね。職種による垣根のようなものは全く感じず、**みんなで協力していこうという雰囲気**があります。

全文はこちら



土木職：2023年入庁
道路維持課 主務

PROFILE

大学で**土木工学**を専攻。卒業後は建設会社に就職し、**19年間**管工事を中心に現場での**施工管理**などに携わる。長年同じ業務に取り組んできた中で、「このままでいいの？」とキャリアについて考えるようになり、**40代で奈良市役所への転職を決意**。現在は道路維持課で、市道の維持管理業務を担っている。測量や工事前の立ち会いなど、週の半分以上は現場に出て、工事の安全確保に励んでいる。



設計から施工、完成まで一貫して携われる

前職では「工事を受ける側」として、売上や利益を重視する立場でした。一方で今は「発注する側」として、市民の皆さんの声に寄り添いながら仕事をしています。

発注者でありながら現場の監督員としても関わるため**設計から施工、完成まで一貫して携われる**のが大きな違いです。責任は大きいですがその分達成感もあり、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

道路の舗装が綺麗になったり、通行がスムーズになったりすると「やってよかったな」と思えますし達成感があります。また、市民の方から「ありがとう」と電話をいただいた時は本当に嬉しかったです。

奈良市役所で市民貢献と自身の人生の充実を

奈良市での仕事は、市民のために働いている実感が持てる職場です。成果が目に見えるので、やりがいも大きいです。

働く環境も整っています。今はほとんど残業がなく、定時に帰れる日がほとんどです。**家族との時間や趣味の時間も取れるようになって、毎日**が**とても充実**しています。

さらに今年から業務の外部委託などにより、**働き方や業務の進め方もより良くなっています**。奈良市での仕事に興味がある方はぜひ挑戦してみてください！

全文はこちら

